音楽の印象形成における視覚刺激の影響
── 視覚刺激の意識的活用と音楽から想起される情報の観点から ──

栗 田 統 史

【問題と目的】

同一の音楽が，その音楽を聴いた場面や状況によって，異なった印象が喚起されることがある。谷口（1998）は，同じ音楽を聴いたとき人によって喚起される感情は異なり，また同じ人が同一作品を違う状況で聴いた場合にも異なる感情が喚起されることもあると指摘し，音楽の聴取から感情が生起するまでの要因として4つ挙げている。第1に，個々人の性格，音楽的好み，聴取態度などの個人特性。第2に，音楽を聴くときの心理状態。第3に，再生装置の特性などの音響的な環境。第4に，音楽と同時に生起している事象，例えば，映画の画面や会話や内容との相互作用である。第4の要因は，異系感性刺激の性質の変化に呼応して，主感覚の性質も変化する，共鳴という現象に類似している。（影響を与える方の刺激を異系感性刺激，影響を受ける側を主感覚と呼ぶならわしがある。）共鳴とは，例えば音の持つ明るさという性質の変化が視覚の明るさを同じ方向に変化せしめるというに効果の方向を期待するものであり，共鳴（consonance）という言葉は，Ryan（1940）によって提唱された。しかしこの現象についてはその後ほとんど研究が展開していない（丸山,1994）。

岩宮（1992，1993）は，聴覚刺激から視覚刺激の影響と，視覚刺激から聴覚刺激の影響を調和度を考慮に入れて検討した。その結果，聴覚から視覚への影響は，調和の高い素材では，「引き締まり，美的，明暗」因子において影響があり，調和の低い素材では，「明暗」のみで影響があった。また，視覚から聴覚の影響としては，調和の低い素材で，「明暗」のみで観測された。そして，視覚から聴覚への影響があるのは「明暗」因子のみであり，聴覚と視覚の相互作用は聴覚が優位であると結論した。

そこで，本研究では，視覚刺激が同時に提示されている状況において，どのような特性をもった音楽が印象が変化しやすく，また，音楽の印象が変化するときどのような内的な処理によって印象が変化するかに焦点を当て検討する。

【研究1】

梅本（1996）は，音楽の認識には次の4つの階層的な次元があることを指摘した。(A)音の高さ，大きさ，音色，長さの認識という音響としての音楽，(B)旋律，リズム，和声などの知覚の対象としての音楽，(C)曲の主題とその発展という構造を持つものとしての音楽，(D)曲の標題，筋書，思想という意味および内容を持つものとしての音楽である。そして，これら全ての次元は音楽的認知の対象であり，全ての次元を認知しないと，音楽的認知は完全なものとならないと述べた。これら4つの次元の認識を通して，刺激としての音楽の印象が形成される。菅（1996）は，最も基礎的な階層である(a)の次元において音程の変化により，(b)の次元ではリズムの躍動感やメロディの明暗感，(c)の次元では楽曲構成の認知的複雑性や新奇性などが情緒的意味と深く関わってくると指摘した。また，Cohen（1993）は，音楽の意味として，指示的意味（denotative meaning）と情緒的意味（affective meaning）の2つをあげている。前者は，ある音楽を聴くと多くの人が同じイメージを思い浮かべるというように，音楽が指し示す具体的な対象を持つことであり，後者は，音楽の性質についての意味である。そこで，本研究では，指示的な意味，つまり，音楽を聴くとはっきりとした想起する内容があるかどうかの特性に注目し，想起する内容が音楽の印象形成において，どのような働きを持っているのかについて考察する。また，視覚刺激が提示されることによって音楽の印象が変化するかの確認をする。

予備調査1

目的：本実験で刺激として使用する音楽に対する適切な音楽の印象評定のための単極尺度を構成するための形容詞を選出することであった。方法：被験者は愛知県内の大学院生10名。谷口（1995），岩宮（1992）を参考にして音楽の印象評定に適切な形容詞語を50語選出し，聴取音楽として，西武門節，ラジオ体操第1，だんご3兄弟，BLUE HAWAI, WEDDING MARCH, 天国と地獄，ILLUSION, waiting, scorn, Orange Romeda, 4 a Moment of Silence, Acperienceより30秒抜粋したものを用いた。結果：第1因子は「強さ」，第2因子は「優雅さ」，第3因子は「明るさ」，第4因子「明確さ」と考えられる。SD法におけるevaluation 因子は「明るさ」因子に相当し，potency 因子は「優雅さ」因子に相当し，activity 因子は「強さ」「明確さ」に分離した形になった。

予備調査2

目的：本実験で使用する音楽を，音楽から「想起される

情報」の観点から分類することである。方法：愛知県内の大学生12人。予備調査1と同じ音楽に対して，音楽から想起されるものを記入させた。結果：各曲で想起されたものの中で最も頻度が高いものを基準とし，その想起されたものが共有されている割合を産出し，割合の高いものを「想起情報あり」とし，割合の低いものを「想起情報なし」とした。

実験1

＜方法＞

要因計画：画像提示（画像提示あり，画像提示なし）×想起情報（想起情報あり，想起情報なし）。画像提示，想起情報は共に被験者内要因。被験者：名古屋市内の大学生20人。音楽刺激：予備調査において使用し音楽から想起される情報の基準で分類した音楽。画像刺激：予備調査で3人に対して，音楽と画像を提示したときある程度調和しているものを組み合わせた。手続き：(1) 音楽のみを印象を評定 (2) 干渉課題 (3) (1)で提示した半分の音楽を音楽のみで提示し，印象を評定(4) (1)で提示された音楽のうち(3)で提示されなかった音楽を画像と共に提示し音楽の印象を評定

＜結果と考察＞

各音楽ごとに (1) (3) (4) の音楽印象評定の尺度得点を求めた。次に (1), (3) と (4) で同一の曲を2回提示してあるので，(3) から (1) の尺度得点を引いたもの，(4) から (1) の尺度得点を引いた得点を各音楽ごとに産出し，各音楽の尺度得点の変化量とした。「想起情報あり」と「想起情報なし」にあたる音楽を，各被験者に対して各3曲提示したので，3曲の尺度得点の変化量の絶対値の平均値を求め各尺度ごとに画像提示（あり，なし），想起情報（あり，なし）の2×2の2要因分散分析を行った。その結果，音楽の印象評定の変化量は，「明確さ」「強さ」の尺度において画像の提示によって，2回同一の音楽を印象評定したときの変化量よりも有意に大きかった。また，「明るさ」「優雅さ」の尺度においても，画像の提示によって，同一の音楽を2回提示したときの変化量よりも大きい傾向が示された。つまり，画像の提示によって，音楽の印象が変化することが示された。また，「明るさ」尺度において，「想起情報あり」の音楽より「想起情報なし」の音楽の方が変化量が大きいことが示され，「強さ」尺度において，「想起情報なし」の方が「想起情報あり」よりも変化量が大きい傾向が見られた。

【研究2】

実験2

音楽が提示されているときに，単に画像が提示されていれば，画像の情報が音楽の印象形成に利用されるわけではない。つまり，画像が提示されたとき，画像と音楽は関係あるものであり，画像が音楽の印象形成に利用できることが必要である。そこで，実験2では，実験1と同じ枠組みで，画像が提示されたときの内的な処理を教示によって方向付ける。

要因計画：教示（関係あり，関係なし）×想起情報（想起情報あり，想起情報なし）。教示は被験者間要因，想起情報は被験者内要因。

被験者：愛知県内の大学生40人。音楽，画像刺激：実験1と同じ。手続き：(1) 音楽のみの印象を評定 (2) 干渉課題，(3) 音楽と共に画像を提示するときに教示を与え，その後音楽の印象を評定。教示は「関係あり」群では「音楽と画像は関係があります。画像からイメージをふくらませて，音楽の印象評定をしてください。」，「関係なし」群では「音楽と画像は関係ありません。画像にまどわされないようにして，音楽の印象評定をしてください。」とした。

＜結果と考察＞

各音楽ごとに (1) (3) の音楽印象評定尺度得点を求めた。(1) と (3) で提示された音楽は同一の曲なので，(3) から (1) の尺度得点を引いて各音楽の尺度得点の変化量を産出した。「想起情報あり」と「想起情報なし」は各3曲提示したので，3曲の尺度得点の変化量の絶対値の平均値を求めた。そして，各尺度ごとに，被験者間要因として教示（関係あり，関係なし），被験者内要因として想起情報（あり，なし）の，2×2の2要因分散分析を行った。その結果，「明るさ」「強さ」尺度において，画像と音楽を関係付ける群の方が，画像と音楽を関係付けない群よりも，印象の変化量が大きかった。また，「優雅さ」尺度においては，画像と音楽を関係付ける群の方が，画像と音楽を関係付けない群より，印象の変化が大きい傾向が見られた。

【総合考察】

本研究では，画像が提示されることによって，音楽の印象の変化量が大きくなることが確認され，画像が提示されているとき，音楽と画像を意識的に関連づけると，音楽の印象の変化量が大きくなることが示唆された。実験1で想起情報なしの音楽の方が一部の尺度において変化量が大きいことより，同一の音楽に対する印象の変化の要因として，音の物理的特性に注目し，今後検討する必要がある。また，被験者の内省より，想起情報ありの音楽では，音楽から想起される内容とは異なる画像で，かつ画像と音楽が関係あると認識できた場合に印象が変化するように感じられたということから，想起情報ありの音楽を用いて，具体的にどのようなプロセスで印象が変わって感じるのか検討することが必要である。